



図135 城山の尾根 1,上城跡 2,下城跡
戦後の景観



図134 城跡の位置 1,上城跡 2,下城跡 2万5000分1地形図「角田山」

上城跡・下城跡 西蒲区竹野町

上城跡・下城跡は、角田山東麓から平野に突き出た標高約二五メートルの尾根の先端部にある。二股に分かれた尾根先端の北側に下城跡、南側に上城跡があり、どちらも中世の山城である。上城跡の範囲は東西一〇〇メートル、南北八〇メートルほど、下城跡の範囲は東西一七〇メートル、南北一〇〇メートルほどと考えられている。

上城跡は、最も高い所に城の中心部が置かれ、要所には堀や土塁、水源地などが残っていた。しかし、昭和四十八（一九七三）年の土取り工事で大半が失われ、現在は城跡東端の輪郭がわずかに残っているだけである。土取り工事の際に、たくさんの焼き物が出土したというが、現存する資料は、工事終了後に採集された陶磁器三点だけである。このうち、越前焼と珠洲焼の二点は十五世紀のものと考えられる。

下城跡は、尾根頂上の長さ約六〇メートル、幅約一〇メートルの細長い平坦面に城の中心部が置かれ、その周りには、尾根下に



図136 下城跡 北から

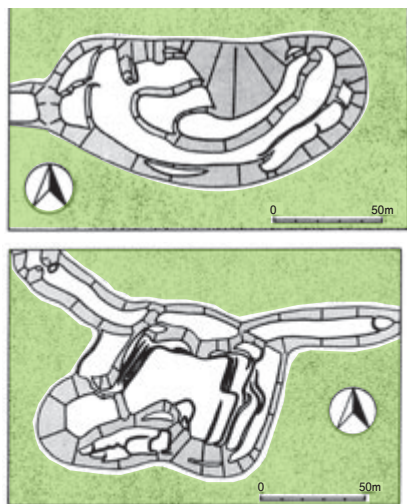


図137 山城略図 上,下城跡 下,上城跡

と考えられる。
 上城跡・下城跡は、昭和三十五年（一九六〇）年に巻町の史跡に指定され、現在は新潟市の史跡に継承されている。

向かって三段の平坦面が階段状に造成され、要所に堀や土塁を築いて守りを固めている。尾根の東端の湿地は水源地になっており、この湧水を利用したのであろう。下城跡では、十四世紀から十五世紀の越前焼と珠洲焼の破片二点が見つかっている。

上城跡・下城跡は、どちらも標高の低い尾根上に築かれた比較的小規模な山城である。また、城の構造が互いの城を意識して設計されていると考えられることや、採集遺物がほぼ同時期のものであることから、二つの山城は、有事の際に密接に連絡を取りあいながら、連携して機能していた